

「という感じがする」の意味・機能

— 「 ϕ 感じがする」との比較から —

小 竹 直 子

Meanings and Functions of the Phrase “Toyuu Kanji-ga Suru”

— Comparison with “ ϕ Kanji-ga Suru” —

Naoko Kotake

Abstract

The occurrence of “toyuu” with “kanji-ga suru” (“I feel”) is sometimes optional, but that does not mean that there are no differences in their meanings. However, the differences in meaning are quite hard to grasp even for native Japanese speakers, the two phrases have been taught as if they have the same meaning. This paper examines what meaning and function are added when “toyuu” occurs in sentences with “kanji-ga suru” through corpus examples and questionnaires administered to Japanese native speakers. This paper makes the following claims: 1) when the contents of a complement clause are interpreted as being surprising and impressive for the speakers, “toyuu” occurs, and 2) “toyuu” also occurs when the events and topics expressed by the complement clause are quite typical for speakers. On the basis of the above claims, this paper proposes one explanation of the meanings and functions of “toyuu kanji-ga suru” for Japanese language learners.

1. はじめに

日本語学習者から語学学習の Q&A アプリ HiNative に (1) のような質問が寄せられている。

- (1) What is the difference between この景色を見ると、日本に来たという感じがします and この景色を見ると、日本に来た感じがし

ます？ (Re-kun, 19 Nov 2016)

<https://hinative.com/en-US/questions/1292887?pos>

(2019年2月27日検索)

「感じがする」の前に「という」が介入してもしなくてもよい場合があるが、「という」が介入するとどのような意味の違いがあるのかという質問で、これに対してHiNativeでは「意味は同じだが、『来た感じ』のほうが少しだけ casual」だという回答が1件寄せられているのみであった。「来たという感じがする」はカジュアルでないという直感²⁾は、「という」の文体的特徴から来るもので、「という」を「って」や「っていう」に変えれば、³⁾介入しない場合と文体差は感じられなくなるだろう。

(1) この景色を見ると、日本に来たって感じがします。

では、「って」、「っていう」、「という」など（以下、代表して「トイウ」と表記する⁴⁾）の介入による意味の違いはまったくないのか、もしそうなら、話者は何のために「トイウ」を介入させるのか、疑問が残る。

たとえば、(2)と(3)はインターネット上の実例であるが（下線は筆者による⁵⁾）、「感じがする」の前に「トイウ」が介入している。これを(2)や(3)のように「トイウ」を削除すると、なんだか物足りない文になってしまう。

(2) 亮介くんは、いかにもモテるって感じがするね。カッコいいし、爽やかだし。女の子がたくさん寄ってくるでしょ。

<http://news.line.me/issue/oa-ananweb/5c9efddcd135>

(2019年2月23日検索)

(2) 亮介くんは、いかにもモテる感じがするね。

(3) 「外資とか受かる人ってやっぱり違いますよねー」もう一人の巻き髪の子が言う。

「いや、違うっていうことはないと思うよ。俺もそうだけど、みんなふつうさ。でもさ、やっぱり外資の方が、自分を活かせる、って感じがするじゃない？

<https://kenkouta.exblog.jp/25584190/> (2019年2月23日)

(3) やっぱり外資の方が自分を活かせる感じがするじゃない？

(2) では「モテる」とはどのような人か、典型的にモテる男性のイメージを思い起こさせ、主題である「亮介くん」からその典型的なモテる男性の印象を受けるということを表しているのに対し、「トイウ」を削除するとその典型性の意味が欠けてしまうように感じられる。(3) では話者の男性が「外資系企業は普通のレベルではなく本当の意味で自分を活かせるんだよ」と述べているように感じられ、少し嫌味さえ感じさせるが、「トイウ」の介入がない文ではそのニュアンスが薄れてしまう。

このように「トイウ感じがする」と「 ϕ 感じがする（「トイウ」の介入しない「感じがする」）」は決して意味の違いがないわけではないが、適当な説明が思い浮かばない、説明しても学習者は理解できない、といった理由で「同じ意味」と説明されがちなのではないだろうか。その結果、日本語学習者は「何のために「トイウ」が必要なのか十分理解できていない（浅山2006, p.127⁶⁾）」と指摘される事態に陥っている。本稿では、「トイウ感じがする」の正確な意味を記述し、日本語学習者への適切な説明を提案したい。

2. 「トイウ」の介入が不可か必須かに関する先行研究

「感じがする」の前に「トイウ」が介入する場合の意味について議論する前に、まず「トイウ」の介入が必須か、あるいは任意かを分けて考える必要がある。本稿目指すところは、「トイウ」の介入が任意、すなわち「トイウ」が介入してもしなくても文法的に誤りでない場合に「トイウ」が介入する場合の意味を記述することである。そこでまず、「トイウ」の介入が可か不可か、可の場合は必須か任意かを、先行研究を概観しながら整理し、本稿の対象とする現象の範囲を明確にする必要がある。寺村（1975-1978）によれば、一般に、名詞修飾構造において「トイウ」の介入の可・不可に影響を与える要因は大きく分けて二つある。一つは、被修飾名詞、いわゆる底の名詞の意味的特徴、二つ目は底の名詞に前接している文の構

造という統語的特徴である。まず、この二つの要因についてそれぞれ先行研究をまとめ、本稿の扱う「トイウ感じがする」の底の名詞である「感じ」の意味特徴、並びに「トイウ感じがする」に前接する名詞修飾節の文構造について考察の枠組みを捉える。

2-1. 底の名詞の種類と「トイウ」の介入の可否

底の名詞の種類と「トイウ」の介入を見る前に、前提となる事実を確認しておく。すなわち、本稿の考察対象である「トイウ感じがする」は寺村(1975-1978)の用語でいう「外の関係」であり、一部に「伝聞」の場合など「内の関係」でも「トイウ」の介入が見られるとの指摘がある(中島1990、大島1991、高橋1994)ものの、本稿では「外の関係」の名詞修飾節における「トイウ」の可否を問題にすることとする。寺村(1975)は、「外の関係」の中で、「トイウ」の介入を許す名詞修飾節は「ふつうの内容補充」であって、「相対的補充」ではないと述べている。すなわち、(4)のように、底の名詞が相対性を持ち、前接する文がその意味を「相対的」に補充している場合、「トイウ」の介入は、まったくもって不可能である。

- (4) a. 先頭集団が走っている前
b. 深酒をした翌日
c. 文子が座ったうしろ (寺村 1992⁷⁾, pp.200-201)

このことから、寺村(1975)は「ふつうの内容補充」の連体修飾節を形成する底の名詞は「コト性」を持ったものでなければならないとし、寺村(1977,9)では、その中でも「トイウ」の介入が可能になるのは、(5a)に例示する「発話・思考の名詞」と(5b)に例示する「コトを表す名詞」であり、(5c)に例示する「感覚の名詞」は「トイウ」の介入が不可になるとしている。しかし、「感覚の名詞」が「トイウ」の介入を許す例があることが後に明らかにされている(Terakura 1983, pp.24,44、高橋2006, p.87)。

- (5) a. 発話・思考の名詞：「言葉」「噂」「思い」「期待」など

- b. 「コト」を表す名詞：「事実」「運命」「癖」「方法」など
- c. 感覚の名詞：「姿」「音」「絵」「光景」など

(寺村 1992, pp.269-296、大場 2016, p.4)

本稿の考察対象の「感じ」は、寺村（1975）では感覚の名詞とされ、「トイウ」が介入しない名詞の例として挙げられている（寺村 1992, p.205）が、これについて Terakura（1983, p.43）で反例が挙げられている。ここでは実例を見ながら「トイウ」の介入を許さない「感じがする」と「トイウ」の介入を許す「感じがする」の違いを見ていきたい。「トイウ」が介入できない「感じがする」文は（7）のようなものがある。

- (6) 耳閉感とは、耳がつまった感じや塞がった感じがすることです。

<http://www.okamura-jibika.jp/category/1529425.html>

(2018年2月23日検索)

- (6') ?? 耳閉感とは、耳がつまったという感じやふさがったという感じがすることです。⁸⁾

(6) の「感じ」は生理的な意味の「感覚」を表している。しかし、「感じがする」の「感じ」の意味はこれだけではない。他に、「印象」や「予感⁹⁾」、「気持ち」など、思考過程を通して生じる「感じ」を表す場合もあり、その場合に、「トイウ」の介入を許すのではないかと考えられる。次の（7）は思考過程を通して生じる「感じ」を表す例であると考えられる。

- (7) 大雄山最乗寺（道了尊）の口コミ

いつも散歩に行く、緑の中にある寺。

自然のパワーと寺のパワーが、心身ともに軽くクリアな自分に戻してくれる感じがして、好き。

https://www.tripadvisor.jp/ShowUserReviews-g1021290-d1311203-r456185993-Daiyuzan_Saijoji_Temple_Doryoson.html

(2019年2月23日検索)

「クリアな自分に戻してくれる感じ」とは、(6) のような生理的な「感覚」とは違い、思考を介して、脳内に創造的に生じる新たな「感覚」であ

る。後者の場合は、(7) に示すように「トイウ」の介入が許される。

(7) クリアな自分にもどしてくれるという感じがして、好き。

金 (1989, p.28) では、「トイウ」が介入しない「感じがする」は感覚行為を表しており、「トイウ」が介入する「感じがする」は思考行為を表していると考察しているが、この捉え方は本稿の考え方と重なるところがある。しかし、当然ながら「トイウ」の介入の可否が底の名詞の性質だけで決まるわけではない。「感じがする」の「感じ」が多義であって、時に「トイウ」の介入を許す場合があることを確認したが、次に、「感じがする」に前接する名詞修飾節の文構造によって、「トイウ」の介入の可・不可が決まることを見ていきたい。

2-2. 名詞修飾節の構造と「トイウ」の介入の可否

底の名詞が「トイウ」の介入を許す名詞の場合でも、前接する名詞修飾節の文構造によって「トイウ」の介入が必須となったり任意となったりする問題がある。たとえば、(8) に示す例は、「トイウ」が介入してもしなくても文法的であり、「トイウ」の介入が任意だと言えるが、(9) のように前接する名詞修飾節の述語部分を変化させると「トイウ」の介入が必須となる。

(8) a. 女房の幽霊が三年目にあらわれる (という) 話

b. 清少納言と紫式部が会った (という) 事実

(寺村 1992, p.199)

(9) a. *女房の幽霊が三年目に現れたのだ話

b. *清少納言と紫式部が会っているはずだ事実 《作例》¹⁰⁾

(10) a. 女房の幽霊が三年目に現れたのだという話

b. 清少納言と紫式部が会っているはずだという事実 《作例》

これは、「トイウ」の「ト」が元々文をできるだけそのままの形で、すなわちモダリティを保持しつつ、他の文に引き入れる時に使われるという性質を引き継いでいるからだとして寺村 (1977.9) は説明している。すなわち、

モダリティを含み、文として独立性が高くなるほど、寺村(1977.9)の用語では、「陳述度」の高さが高いほど「トイウ」の介入が必須になるというわけである。寺村(1977.9)は、次のように陳述度の高さを段階付けている。

(11)

	(低)		(高)
1 →	2 →	3 →	4 → 5
動詞現在形	～ラシイ	～ダ	丁寧体 終助詞
動詞過去形	～ダロウ	～ノダ	
形容詞現在	～カモシレナイ	～ハズダ	
形容詞過去	意向形	命令形	
～ダッタ	推量形		(寺村 1992, p.269)

「感じがする」においても、前接する名詞修飾節の陳述度が高い場合は強制的に「トイウ」が介入する。たとえば、(12) や (13) のように終助詞が伴っている場合には、間違いなく「トイウ」の介入は必須となる。

(12) 「中央競馬の売り上げについては、JRA 内部にも厳しい見方があるようですが。」「売り上げに関しては、秋になって下げ止まりかなという感じがします。(BCCWJ, PB26_00051)

(13) 明治時代の人たちというのは、ただ学んだだけではなくて、自分をきちんと表現した。それが今ちょっと衰退しているのではないだろうか、という感じがします。(BCCWJ, LBn9_00029)

しかし問題は、陳述度が1となる場合である。この場合は寺村(1977.9)でも指摘されているように「トイウ」が介入しても介入しなくても文法的に誤りではない。つまり、陳述度1は「トイウ」の介入が任意であり、本稿が問題とする現象は陳述度1の場合にあたと考えられる。(14) では前接する名詞修飾節の述語が動詞過去形、(15) では形容詞現在形である。

(14) この景色を見ると、日本に来た {という/φ} 感じがします。

〔(1) 再掲〕

- (15) 揚げなすのそぼろがけ。マーボーなすに比べ、味わいがやさしく、懐かしい {という／φ} 感じがするそぼろがけ。野菜は蓮根、ごぼう、長芋など、何でもよく合います。

(BCCWJ, LBr5_00004 原文はφ)

加えて、裸の名詞(句)に「トイウ」がつく場合も、「トイウ感じがする」を観察すると多く見られること。(16)(17)(18)はいずれも名詞(句)に直接「トイウ」が後続している。「トイウ」ではなく、準体助詞の「の」を挿入して「チョウの感じがする」「バトルの感じがする」「海一筋に生きてきた男の感じがする」といっても文法的に間違いとまでは言えないだろうが、「トイウ」が介入したほうが落ち着きが良い文である。裸の名詞(句)は寺村(1977.9)で言えば、さしずめ陳述度0に当たると考えられるが、「トイウ」の介入する構造として重要であることから、本稿では考察の対象としたい。

- (16) 黄色に黒いしま模様があるところはキアゲハに似ているけれど、もっと上品です。からだがうぶ毛でおおわれていて、いかにも春のチョウという感じがする。(BCCWJ, LBen_00011)
- (17) 北村先生と水木さんのやりとりを見ていると、何か二種類の怪物同士のバトルという感じがする。(BCCWJ, LBi2_00023)
- (18) ガッシリした体格に似合った太い声で船長は挨拶し始めた。五十ちょっとぐらいの年恰好だろうか。いかにも海一筋に生きてきた男、という感じがする。(BCCWJ, LBJ9_00018)

寺村(1977.9)で陳述度1あるいは、名詞(句)に直接「トイウ」が接続する場合は、既に見たように「トイウ」の介入が任意になり、名詞(句)の場合は任意に準体助詞の「の」と置き換え可能になるという点で、本稿の関心の対象となる。「介入任意」とされるこれらの場合においても、「トイウ」があった方がより自然な場合、ないほうがより自然な場合といった違いが感じられる。また、介入する場合としない場合で意味の相違がない

わけではなく、やはり相違があると指摘する先行研究も多くある（中島 1990, pp.48-49、大島 1991, p.43、周・松村 2010, p.23）。また、寺村（1975-1978）がそれを否定しているわけではない。そこで第3節では、「トイウ」の介入が任意とされる場合において、「トイウ」が介入するとどのような意味が加えられるのかという観点から考察している先行研究を概観し、続く第4節での本稿の提案へとつなぎたい。

3. 「トイウ」が任意の場合における「トイウ」の意味に関する先行研究

大島（1991, p.44）は、「トイウ」の介入が任意である構造において、「トイウ」が介入する条件を以下のように述べている。

- (19) 修飾節の表現形式——すなわち当該の「事態」を修飾節の形で「表現してみるとどうなるか」——を話し手が意識している場合、「という」が介在する。

大島（1991）は、「トイウ」は基本的に「言語によって表現する過程を経た要素を導く」機能を持っていると説明しており、「表現過程を意識」しているか否かという観点は本稿の問題にとっても非常に重要な示唆になると思われる。特に、「表現してみると」という説明は、ある対象を「名付けてみる¹¹⁾」と言い換えてみるとどうだろう。たとえば、(20)のような文で当該の男を「いかにも海一筋で生きてきた男」と名付けてみる話者の表現意図が大島（1991）の（19）の説明で捉えられるように思われる。

- (20) ガッシリした体格に似合った太い声で船長は挨拶し始めた。五十ちよっとぐらいの年恰好だろうか。いかにも海一筋に生きてきた男、という感じがする。 [(18) 再掲]

また、(21)のような文においても、「文化」のある側面を「言ってみれば『文化の断面』」と名付けてみるができるという話者の発話意図が説明できるように思われる。

- (21) ラッキョの皮と一緒に、剥いても剥いても、その下にまたいろんなものが見えてくるという、実に不思議な文化の断面を見たとい

う感じがします。

(BCCWJ, PB23_00012)

以上のように大島 (1991) の説明は説得的ではあるが、そもそも「表現してみると (名付けてみると) どうなるか」という意識はなぜ話者のうちに生まれるのかという点に疑問が残る。話者は最初から最後まで表現しているわけで、何かを言語化しようとするとき常に「表現してみるとどうなるか」という意識を持っていると言ってもいいはずである。取り立てて従属節内の事態を「表現してみる」意識を持つとはどういうことなのか、この点の説明が必要ではないだろうか。

また、周・松村 (2010, p.10) は、主文の主語と従属節の主体が一致しない場合、従属節内の内容が主文の主語の領域外にあると見做されるため、「トイウ」が入りやすいと説明し、「トイウ」の介入の条件を明確に示している。この説明は、金 (1989) の「トイウ」の意味機能と親和性を持つものである。すなわち、金 (1989, p.53) は、「トイウ」には「内容補充節」をとる名詞修飾節において修飾部のことばを抽象的に、疎遠に解釈させる機能があると説明しているが、周・松村 (2010) はこの「疎遠」という言葉の内実を「領域」という言葉で説明したと言えるだろう。「感じがする」文においても、周・松村 (2010) の条件は多くの場合に当てはまるように思われる。「感じがする」文では主文の主語は常に何らかの印象を受ける主体、何らかの感覚を経験する主体であり、従属節の主体は常に印象を与える主体、感覚の元となる主体である。たとえば、(22) では主文の「モテる」という印象を受ける主体は話者であり、従属節の主体は「亮介くん」で、「トイウ」が介入しやすい文であると説明できる。また、(23) の主文の「自分を活かせる」という感覚を経験する主体も、周・松村 (2010) の説明によれば自分を客体化しているため「感じがする」の主体とは異なるという。つまり、この2例については、周・松村 (2010) の条件で説明がつく。

(22) 亮介くんは、いかにもモテるって感じがするね。 [(2) 再掲]

(23) やっぱり外資の方が、自分を活かせる、って感じがするじゃない？

〔(3) 再掲〕

しかし、冒頭の学習者の質問にあった(24)は「感じがする」主体と従属節の主体が一致している例であった。(24)は「トイウ」が介入しにくい例であろうか。「トイウ」が介入しやすくないとは言っても、「トイウ」の介入が不可能であるとは言っていないわけで、(24)が反例になるとは言えないだろう。しかしこのような例でも、「トイウ」を入れるとどのように意味が変わるのかに本稿では関心がある。

(24) この景色を見ると、日本に来たという感じがします。

〔(1) 再々掲〕

ここまでの先行研究で共通して指摘されていることは、名詞修飾節の内容を話者がどのように捉えているか、それによって「トイウ」の介入可能性が影響を受けるということであり、その点は間違いなさそうである。そこで本稿では、「感じがする」文において名詞修飾節の内容を話者がどのように捉えているとき「トイウ」が介入するのか検討してみたい。

次節では、「感じがする」文に「トイウ」が介入する場合の意味と発話伝達上の機能について本稿の仮説を述べる。そして、第5節において、アンケート調査やコーパスの実例の分析を通して、仮説を検証し、その上で、第6節において「トイウ感じがする」の意味・機能をまとめ、日本語教育における説明方法を提案してみたい。

4. 「トイウ」が「感じがする」文に加える意味・機能

ここまでの議論で、「感じがする」文における「トイウ」の介入の問題を議論するうえで、二つの要素を考慮する必要があることがわかった。第一に「感じがする」の「感じ」の意味の解釈によって「トイウ」の介入の可否が異なることと、第二に名詞修飾節の内容を話者が表現してみようとして表現する意図によって「トイウ」の介入しやすさが影響を受けるということである。

第一の「感じ」の意味の解釈については、単なる「感覚」ではなく、思

考行為を介在して生み出される「印象」や「気持ち」として解釈される場合に、「トイウ」の介入が可能になることが既に明らかにされている（Tera-kura1983、金1989）。そこで、「感じ」が思考行為の結果生じるものであると規定されるならば、名詞修飾節の内容は「感じがする」の主体の思考内容のはずである。「感じがする」は文末言い切りの場合には主語が一人称に制限されることから、多くの場合には、話者が思考する内容が名詞修飾節の内容になるということになる。金（1989）、周・松村（2010）では名詞修飾節の内容が話者によって疎遠に解釈される場合、あるいは話者の領域から離れている場合に「トイウ」が介入するという説明であった。しかし、話者が思考する内容を話者自身が疎遠に解釈するとは不思議に思われる。

そこで、本稿では話者が話者自身の思考内容に驚いている、あるいは感動しているという説明を試みてみたい。

次の(25)や(26)の例は、「トイウ」の介入がなくても文法的には間違いではない。しかし、「トイウ」がなければ、生き生きとした話者の感動を表現できないように思われる。すなわち、(25)では、「信じられないことに（生きていないものが）生きている」と感じられる。(26)では、「(今まではできなかったのに)明日からは本当にやりたいことができる。こんな感覚は非日常的だ」と述べていると解釈されるからである。

(25) こういうものをみると興奮する。丁寧につくられているねえ。土台の栓をみて。天然乾燥のものっていいね。生きているってかんじがする。
(BCCWJ, OY05_05565)

(26) だから今までは準備期間で、明日からやっと本当にやりたいことができる、っていう感じがするよ。僕たちにとっては壁のあることが日常だったから、壁がなくなってからというもの、毎日が非日常なんだ。
(BCCWJ, LBh2_00075)

そのような解釈をとる場合、名詞修飾節が単なる事実を表しているだけでなく、それに対する話者の「驚嘆」の態度、すなわちモダリティが表されていると考えられる。したがって、「陳述度」が高くなり、「トイウ」が

要求されることになる。また、意味的には、名詞修飾節の内容を話者がいったん離れたところから眺めて「驚く」「感動する」という捉え方をしている場合に「トイウ」が介入すると説明できるだろう。

「驚いた、感動した」内容を名詞修飾節として導入する場合に「トイウ」が介入するという説明は、動詞文や形容詞文に当てはまりやすいが、既に述べたように「トイウ感じがする」は名詞（句）に直接後続する例も多い¹²⁾。名詞（句）に直接後続する場合は、話者がその名詞を「普通の N ではなく、典型的な N」と捉えていると説明できないだろうか。次の例を見られたい。

(27) あ～ちゃんは、世間的には自由奔放なトークをする娘というイメージが定着しつつあるけど、涙もろいし、Perfume の中では一番女の子って感じがしますよね。(BCCWJ, OY04_02953)

(28) BALL BUTTONS 1センチ程のボール型のガラスボタン。ポヘミア地方の小さな工房で多く作られていたもので、ガラスの小さな工芸品といった感じがします。十九世紀の終わり頃から生産されていました。(BCCWJ, LBT5_00001)

「あ～ちゃん」は誰が見ても女の子であるし、ガラス工房で作られたガラスボタンは小さな工芸品であることは間違いない。それに対して話者が驚いたり、感動したりしているというよりも、話者は「あ～ちゃんは、どこにでもいる女の子ではなく、典型的な女の子らしい女の子だ」という感じがする」とか、「どこにでもあるボタンではなく、まさに工芸品と言えるようなものだ」という感じがする」と言いたいのだと考えられる。すなわち名詞修飾節（句）を形成する名詞に対して「典型的な～」という意識を持っている場合に「トイウ」が介入すると説明できる¹³⁾。この説明によると、(27) や (28) の物足りなさがうまく説明できるように思われる。

(27) ? (あ～ちゃんは) Perfume の中では一番女の子の感じがしますよね。

(28) ? (このガラスのボタンは) ガラスの小さな工芸品の感じがします。

「トイウ」の介入がないと「並みの N ではない典型的な N だ」といった言葉の重みがなくなるように感じる。

ここまでをまとめて、本稿の仮説を導きたい。すなわち、「感じがする」文において、「トイウ」が介入する条件は、①「感じがする」の「感じ」が思考活動を通して生じた「印象」や「気持ち」を表しており、且つ②話者がその思考内容である名詞修飾節の内容に「驚き」や「感動」を感じている（以下、この二つの意味を合わせて「驚嘆性」とこの論文では呼ぶことにする）か、あるいは「典型性」を表現しようとしている場合であると仮定する。次節では、アンケート調査の結果や『現代書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』での事例調査の結果を元に、この仮説の妥当性を検証する。

5. 「トイウ感じがする」の「驚嘆性」「典型性」検証

ここでは、アンケート調査の結果とコーパスの実例分析を通して第4節で述べた仮説の検証を試みたい。

5-1. アンケート調査

このアンケートは、『現代書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』の実例を元に、筆者が文の長さなどを調整して作例した10個の例文に、程度の甚だしさを表す「非常に」「この上なく」などと、典型性を表す「まさしく」「まったく」などを付加したものと付加しないものの2種類を作り、合計20文の自然さを10人の日本語教授経験のある日本語母語話者に4段階で判定してもらった。文の自然さには様々な要因がかかわっており、必ずしも本稿が関心を持つ「驚嘆性」「典型性」によってのみ文の自然さの判定が影響を受けたとは思われないが、それでも「驚嘆性」「典型性」によって説明できるいくつかの現象が観察された。まず(29)に示す二つの文を見られたい。

- (29) 寒い時期は熱かんにおでんが最高ですね。私は日本酒を熱かんで飲んでいる時だけが
- a. お酒を飲んでるって感じがします。
 - b. お酒を飲んでる感じがします。¹⁴⁾

調査協力者の全員が (b) より (a) のほうが自然であると判定した。この文の意味をよく考えてみると、「熱かん」で飲んでいなくても、また日本酒でなくてワインでもお酒を飲んでいるのに変わりはないが、熱かんで飲んでいる時だけがお酒を飲んでいると感じられると述べているのである。つまり、「お酒を飲んでいる」典型的な場面がこの話者にとって熱かんで飲んでいる時であるということである。したがって、この名詞修飾節に対して話者が「典型性」を感じている場合に「トイウ」が介入するという本稿の仮説に合致すると言える。

(30) 寒い時期は熱かんにおでんが最高ですね。私は日本酒を熱かんで飲んでいる時だけが

- a. まさしくお酒を飲んでるって感じがします。
- b. まさしくお酒を飲んでる感じがします。

「まさしく」を付加した (30) では、(a) も (b) も同等であると判定した人が2人、(b) のほうが自然であると判定した人が1人いたが、残りの7人はやはり (a) のほうが自然であると判定した。

(31) おしゃべりな人は時々うざいですが、無口な人も疲れます。臨機応変に言葉のキャッチボールができる人が、

- a. まさしく理想的な感じがします。
- b. まさしく理想的という感じがします。

(31) についても「トイウ」が介入する (b) のほうが自然と判定した人が10名中8名と多かった。

ただし、程度の甚だしさを表す副詞の付加はあまり「トイウ」の介入による文の容認度に影響を与えなかった。程度が甚だしいからといって必ずしも「驚き」や「感動」を感じるわけではなく、主観的な要因のため、副詞の付加によって測ることはできなかったと考えられる。たとえば、(32) の (b) よりも (d) が最も自然だという答えが多ければ、程度が甚だしい場合に、「トイウ」の介入が自然だと言えるが、実際の結果は、(d) のほうが自然だと答えた人が4名、(b) のほうが自然だと答えた人が3名、同

程度に自然だと答えた人が3名であった。

- (32) あの肌の艶で70代とは驚きだ。何より自信をもって生きていらっしやる様子が、
- a. 美しい感じがする。
 - b. 美しいという感じがする。
 - c. この上なく美しい感じがする。
 - d. この上なく美しいという感じがする。

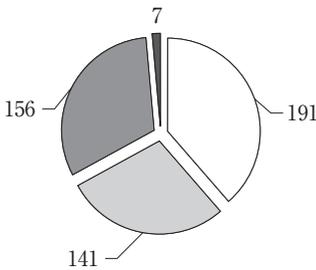
この結果から「この上なく」を付加することによって必ずしも「トイウ」が介入しやすくなるとは言えない。しかし、このことから「驚嘆性」を帯びる場合に「トイウ」が介入しやすいという本稿の主張が否定されるわけではない。

- (33) 高校野球が終わると、あー、夏が終わる {って／? φ} 感じがする。 《作例》
- (34) 馬子にも衣装だね。そうやって着飾ると、まあなんてお美しい {つて／?? φ} 感じがする。 《作例》

(33) のように「あー」や「まあ」「なんと」などの感嘆詞をつけると「トイウ」が介入しやすいように感じられる。このことから、やはり「驚嘆」という話者の事態把握の仕方が「トイウ」の介入に影響を与えていると考えられる。

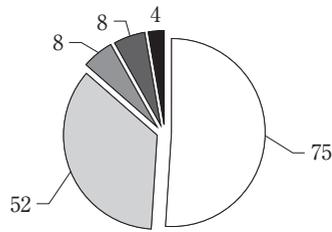
5-2. コーパスの実例分析

「感じがする」の実例を『現代書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』から「中納言」を使って採集し、さらにその中から「トイウ感じがする」の用例と「感じがする」の前に何もつなぎ言葉がない「φ感じがする」の用例とを抽出した。すると、「φ感じがする」の実例が495件、「トイウ感じがする」の実例が147件抽出された。そして、これらの抽出された「感じがする」文の名詞修飾節を構成する述語の品詞を分類してみると、面白い傾向の違いが見えてきた。すなわち、「φ感じがする」の名詞修飾節を構成



□ 動詞 □ い形容詞
■ な形容詞 ■ 名詞

図1 「φ感じがする」の名詞修飾節



□ 名詞 □ 動詞 ■ い形容詞
■ な形容詞 ■ 副詞

図2 「トイウ感じがする」の名詞修飾節

する述語が動詞述語の文が191件、い形容詞文が141例、な形容詞（な形容詞は裸の形容詞（句）が「な」を介して接続する例のみ）が156件、名詞（名詞も裸の名詞（句）が「の」を介して接続する例のみ）が7件であったのに対して、「トイウ感じがする」では、名詞文（「のだ」が付加したものや終助詞が付加したものを含めて）が75件、動詞文が52件、い形容詞文が8件、副詞（句）が4件であった。わかりやすくグラフにすると、「φ感じがする」の名詞修飾節を構成する述語の品詞が図1、「トイウ感じがする」が図2に示すとおりであった。

この二つのグラフを比べて一目瞭然のとおり、「トイウ感じがする」は「φ感じがする」に比べて圧倒的に裸の名詞（句）をとる割合が高いのである。(35) (36) に示すように「名詞+の+感じがする」もなくはないが、非常に数が少ない。

- (35) こんなんで、景気なんて回復するわけがない。ホント、選挙のためのばらまきの感じがするね。定額給付金、市区町村の9割超が大型連休前に支給開始。(BCCWJ, OY03_12223)
- (36) この年の「紅白」は前年が派手だったせいか少し地味な印象の感じがします。大ヒット曲と言う歌も少なかったような印象があります。(BCCWJ, OY14_27402)

これに比して、「トイウ感じがする」においては、「名詞(句) + トイウ + 感じがする」が全体の51%を占める多数派に転じている。

(37) KIRINの「茶来」は本当に苦いのでしょうか？鳥獣戯画がそそりますが……お茶本来の味って感じがします。お茶屋さんで買うお茶の味を知らない人は、違いがわからないのかも。

(BCCWJ, OC08_01028)

(38) 「いつまでも会社のことを考えていても仕方がないのはわかっているんです。他人から見たら、本当に会社人間のなれのはて、という感じがするでしょう？ だけどどうにも自分の気持ちがね…。ここがだめになったから、すぐ次の会社っていうふうに切り替えられないんですよ。

(BCCWJ, LBm3_00142)

このことはやはり「ある対象は典型的な～である印象を受ける」あるいは「普通の程度ではない～である印象を受ける」と表現したい場合に「トイウ」が介入するからではないだろうか。(37)では、KIRINの「茶来」という対象について述べて、「普通のペットボトルのお茶のレベルではない、お茶本来の味を感じる」という話者の感じ方を、(38)では「私は典型的な会社人間のなれのはてだ」という話者の気持ちが表現されている。「トイウ感じがする」に前接する要素の中で名詞句の割合が高いことは、「トイウ感じがする」が「典型性」を表しているという説明に合致する状況証拠であると言える。

以上で述べたように、アンケート調査の結果からもコーパスの実例分析の結果からも、本稿の仮説の妥当性がうかがえる。次に、「トイウ感じがする」の意味・機能をまとめた上で、日本語教育で「トイウ」の介入とその意味についてどのように説明したらわかりやすいかという試案を提示してみたい。

6. 「トイウ感じがする」の意味・機能と日本語教育での説明

先行研究では、「トイウ」の介入が任意の場合、名詞修飾節の内容を話

者がどう捉えているかによって「トイウ」が介入しやすくなったり、しにくくなったりすることがわかっていたが、本稿では「感じがする」を例に、より具体的に話者の捉え方を記述した。すなわち、話者が名詞修飾節の内容について驚いたり、感動したりしている場合と、名詞修飾節の内容を典型的な場面や典型的な物として捉えている場合に「トイウ」が介入しやすいというものであった。次に、この「驚嘆性」と「典型性」という二つの意味を日本語教育において、日本語学習者にどのようにわかりやすく説明できるか、その一案を示してみたい。

まず、「驚嘆性」については、「感嘆」を表す「なあ」がつくとき、「トイウ」の介入が必須となることを先に説明して、「なあ」がつかないときも、たとえば(39)では「本当に日本に来た」、(40)では「本当に夏だ」と心の中で感動して、強くその印象を感じるときは、「という」をつけて「トイウ感じがする」を使うと説明できる。

(39) この景色を見ると、日本に来たなあという感じがする。

→この景色を見ると、日本に来たという感じがする。

(40) カルピスを飲むと、夏だなあという感じがする。

→カルピスを飲むと、夏ってという感じがする。

次に、「典型性」については、たとえば、(41) (42) (43) のようには、「典型的な大人の女性」は何をするか、「典型的なお金持ち」は何を持っているか、「典型的な薬」はどうか、などを考えさせる。そして、それに当てはまるか、当てはまらないかによって、「トイウ感じがする」「トイウ感じがしない」を使うと説明する。

(41) 典型的な大人の女性は、プレゼントに手紙を添えるものだ。

→プレゼントに手紙を添えるなんて、山田さんは大人の女性って感じがするね。

(42) 典型的なお金持ちは、高級外車に乗るものだ。

→あの人は、高級外車に乗っていて、お金持ちって感じがするね。

(43) 典型的な薬は苦いものだ。

→この薬はぜんぜん苦くなくて、薬って感じがしないよ。

「(名詞) って感じがする」は、話し言葉で頻出するので、初級段階で導入してもよいと考えられる。この説明方法で、日本語学習者が本当に適切に理解し、運用できるようになるかをぜひ検証してみたいが、本稿の範囲を大きく超えることになるため、別稿に譲りたい。

7. 本稿の成果と今後の課題

「トイウ」の介入可否の問題については数多くの先行研究があり、説得的な説明がなされている。しかし、従来の研究では名詞修飾構造全体を捉えようとするあまり抽象的な説明にならざるを得なかった。もちろん抽象的に全体を捉えることも重要ではあるが、日本語学習者の立場においては個別・具体的な説明がなければ、運用にまで至るのは難しい。そこで、本稿は「感じがする」に絞って考察することを通して、日本語学習者に対する具体的な説明を考案することができた。残された課題は、この説明をどこまでの対象に当てはめることができるかという問題である。「気がする」「感がある」など類似の文型にも当てはめられるのかはまず取り組むべき課題であろう。また、理論的貢献のためには、「トイウ感じがする」が持つと本稿で主張した「驚嘆性」「典型性」という二つの意味のつながりはどこにあるのか、それらの課題は今後の研究の発展のために不可欠であろう。

注

- 1) HiNative とは自分が学びたい言語や文化についてネイティブスピーカーに直接質問することができる無料外国語学習アプリのことであり、現在 110 以上の言語に対応している (<https://hinative.com/ja> (2019 年 3 月 1 日検索))。
- 2) 質問のあった 2016 年 11 月 19 日に回答が投稿されており、「likes」が 2 つ付き、「Highly-rated answer (高い評価を受けた回答)」とされている。
- 3) 文体差については、藏本 (2016) に興味深い報告がある。すなわち、藏本 (2016) では、「感じがする」の文体差による前接要素の現れ方についての調査結果を報告している。それによると、「ような感じがする」といった様態表

現が前接する場合と「という感じがする」といった引用表現が前接する割合とを比べると、話し言葉になるほど引用表現を前接する割合が多くなること
が藏本（2016, p.12 図2）によって明らかにされている。

- 4) 「感じがする」の前に介入する形式には「という」他に「って」「っていう」「ってな」「といった」などがあるが、意味・機能を考える上で共通している部分があると考えられるため、これらをまずは一括りにして考え、代表として「トイウ」と表記する。なお、寺村（1975、1977.3、1977.9、1978）や大島（1991）などは、「って」を「という」と同等の機能を持った形式だとは言及していないが、『現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』の実例を見ると、「って」の介入が非常に多く（147件中51件で34.7%）、またそれらは「という」と置換可能である。また、新屋（2002）では「って」も「という」の変異形と認めているため、本稿では、「トイウ」と同等の機能を持つ形式と考えている。
- 5) 以下、すべての例文の下線は筆者による。本稿で扱う例文は、主にインターネット上の実例か、国立国語研究所が開発した『現代書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』から検索ツール「中納言」を使って抽出した実例であるが、補助的に筆者の作例を用いている。本文中に特に断りがない場合は作例である。
- 6) 浅山（2006）では、実際に日本語学習者が産出した「トイウ」の介在する名詞修飾節の誤用例と正用例を分析し、「トイウ」を回避することによる誤用が多いことを指摘している（p.119）。このことも学習者が「トイウ」が何のために必要なかを理解していないことを示していると考えられる。
- 7) 寺村（1975、1977.3、1977.9、1978）は、寺村（1992）に再録されている。本稿は、寺村（1992）を参照した。
- 8) 例文の前に示す「??」のマークは、日本語として不自然であるという筆者の判断を示している。「?」はやや不自然であることを、「*」は非文法的であることを示す。
- 9) 「感じ」を国語辞典で引くと、「かんじ【感じ】【名】①感覚。②物事に接したときに生じる気持ち。物事から受ける印象。」（北原（編）2002）とあり、このうち②の意味の「感じがする」が思考過程を経た「感じ」であると考えられる。
- 10) 文法性判断は筆者によるが、寺村（1977.9）で「～のだ」や「～はずだ」が付加する場合は陳述度3に位置づけられており、「トイウ」の介入が必須となるとされている。
- 11) 戸村（1991）に「トイウ」の意味的機能を「抽出機能」と呼ぶ論考が見られるが、そこでも「名付ける」という用語が用いられており、共通した考え方を見ることができる。これは査読者の指摘により気づいたことである。こ

こに記して謝意を表したい。

- 12) 実例を見ると、「お茶本来の味だという感じがする」のように「名詞+だ」に「トイウ」が後続するよりも、裸の名詞句にそのまま付いて「お茶本来の味という感じがする」となる場合が圧倒的に多い。『現代書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』の実例の 75 件中 1 件だけ「ダ」を伴うものがあったが、残りの 74 件、実に 98.7% が裸の名詞 (句) 件に「トイウ」が後続している。これは、話し言葉における名詞文の文末形式の用いられ方とおそらく似ていて、「ダ」が付くと丁寧さが下がり、威圧的に感じられる (李 2011, p.215) と言われていることと関係するのではないかと推測される。
- 13) 査読者から「ガラスボタン」を「典型的な小さな工芸品」と捉えるのには無理があり、むしろ「小さな工芸品みたいだ」という「類似性」を表すのではないかという指摘があった。注の 14) も同様だが、本稿が扱う「トイウ感じがする」は「ヨウナ感じがする」と置き換えられるものも少なくなく、この例も置き換え可能である。したがって、「類似性」の解釈を排除するものではないが、「典型性」の解釈をとる場合には「トイウ感じがする」が選ばれやすいと考えられる。たとえば、「彼はお金持ちって感じがするね」は「お金持ちのような感じがするね」とも置き換えられるが、「まさしくお金持ち」「お金持ちの中のお金持ち」などのように「典型性」を強調する表現にすると「トイウ感じがする」のほうが共起しやすい。そこで、査読者の指摘する解釈を否定するものではないが、ここでは「典型性」の解釈の側面を論じていると理解いただきたい。
- 14) この場合、「あたかも～ような感じがする」に近い意味に解釈される場合がある。たとえば、「お酒を飲んでいる感じがする」は実際には飲んでいないが、あたかも飲んでいる感じがすると解釈される場合なら自然に感じられるだろう。これは注 13) でも述べたが、この文が「ヨウナ感じがする」と置き換え可能であることと関係する。すなわち、「類似性」の解釈と「典型性」の解釈の両方があり得る場合があるが、「典型性」の解釈をとる場合には「トイウ」が介入すると言える。

参考文献

- 浅山友貴 (2006) 「中級学習者における連体修飾節の誤用について——『という』の介在する例を中心に」『日本語と日本語教育／慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター編』第 34 号, pp.109-129.
- 大島資生 (1991) 「連体修飾構造に現れる『トイウ』の意味機能について」『人文学報／首都大学東京都市教養学部人文・社会系, 東京都立大学人文学部編』第

- 225号, pp.27-58.
- 大場美穂子 (2016) 「補文標識『という』に関する一考察」『日本語と日本語教育／慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター編』第44号, pp.1-19.
- 北原保雄 (編) (2002) 『明鏡国語辞典』大修館書店.
- 金 銀淑 (1989) 「連体修飾構造における『トイウ』の意味機能」『国語学研究』第29号, pp.21-34 (pp.64-51).
- 藏本真由 (2016) 「文体差による『気がする』『感じがする』の前接要素の現れ方」『千里山文学論集』第95号, pp.1-22.
- 周 怡来・松村瑞子 (2010) 「『外の関係』連体修飾における『という』の介入・不介入及びその要因」『言語文化論究』第25号, pp.23-34.
- 新屋映子 (2002) 「『という』の介入する連体修飾の意味類型」『桜美林論集』第29号, pp.99-113.
- 高橋美奈子 (1994) 「名詞修飾表現における『トイウ』の介入可能性について——『内の関係』の名詞修飾表現を中心に」『待兼山論叢 日本学篇』第28号, pp.47-63.
- 高橋美奈子 (2006) 「節による名詞修飾表現の分類の一試案」『日本語文法の新地平3』くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1975, 1977.3, 1977.9, 1978) 「連体修飾のシンタクスと意味 (1) ～ (4)」『日本語・日本文化』第4～7号 (寺村1992に再録).
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集I —— 日本語文法編』くろしお出版.
- 戸村佳代 (1991) 「名詞修飾における『トイウ』の機能 (2) —— 『トイウ』の意味的機能」『明治大学教養論集』第242巻, pp.215-231.
- 中畠孝幸 (1990) 「『という』の機能について」『阪大日本語研究』第2号, pp.43-55.
- 李 明熙 (2011) 「話し言葉における名詞文の文末形式の使い分け」『日本語／日本語教育』第2号, pp.207-220.
- Terakura Hiroko (1983) "Noun Modification and the Use of To Yuu", *The Journal of the Association of Teachers of Japanese*, Vol.18, No.1, pp.23-55.